〔板橋区長賞〕

災害復旧と税金

志村第三中学校３年

大　木　夏　花

私の祖母は、栃木県宇都宮市でカフェを経営している。看板メニューの自家製ハヤシライスはとても美味しく、私の大好物である。木を基調とした明るい店内と祖母のおおらかで気さくな性格もあって地元のお客さんにとても愛されているお店だ。そんな私の祖母が住む栃木県に、今から約三年前の二〇一九年十月、台風十九号が直撃した。非常に強い勢力を持つ台風で、県内ではいくつもの河川が氾濫し、死者は四人、建物の損壊約一万四千棟、一時約二万人が避難するなど甚大な被害をもたらした。

祖母の住むすぐ近くの川、田川も氾濫した。普段の穏やかな田川からまるで豹変したように物凄い勢いで濁流が流れる様子をテレビ中継で見て、私は唖然とした。

祖母の店も胸の高さぐらい浸水し、店内は一面泥水になった。浸水した店内の様子を撮影した動画がいくつも送られてきたが、中でも業務用の大きな冷蔵庫が泥水にぷかぷかと浮いている動画は衝撃を受けた。

氾濫が起こった次の日、掃除を手伝いに家族で宇都宮を訪れた。カフェの店内はどこもかしこも泥まみれ、道路の脇に積まれた瓦礫の山。災害の爪痕が残る痛々しい光景を目の当たりにして足がすくんだのを今でも覚えている。

その後祖母の店はたくさんの人の手を借り、数週間かけて元の状態に戻った。しかし、様々なものが壊れてしまっており、営業できる状態にない。祖母は市役所へ相談し、支援金を受けられることを知った。その支援金のおかげで営業再開することができ、徐々にお客さんも戻ってきた。今日も営業を続けている。

また、県は二度と洪水をくり返さないために、川の底を掘り下げる工事や調節池の整備を行っているそうだ。

これらのことを通して私は、災害時における税金の重要性を知った。復旧作業も、支援金も、川の工事も全て税金によってまかなわれている。もし税金がなかったら、町はそのまま廃れていくだろう。

納税をすることで、災害時、復旧復興に役立てられる。すなわちそれは、これからの未来を守り、創ることに繋がる。税金の使い道はもちろん災害に関することだけでなく、普段当たり前に利用している公共施設など様々なものに使われている。私たち中学生はまだ納税者であるという意識が低いと思うが、しっかりとその自覚を持ち、税に対しての興味関心を高めていくべきだと思った。